

平成 23 年度

第 1 / 3 回

(地域別研修)

アフリカ地域

女性指導者のための健康と栄養改善

実施要領

平成 23 年 11 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	4
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	5

付属資料

付表－1 研修員関連情報

付表－2 カリキュラム（暫定）

付表－3 研修日程表（暫定）

付表－4 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) コース名

和文：(地域別研修) アフリカ地域 女性指導者のための健康と栄養改善

英文：Region Focused Training Program on “Health Promotion and Nutrition Improvement for Women Leaders in Africa”

(2) 受入期間

平成 23 年 11 月 8 日（火）～平成 24 年 1 月 21 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 23 年 11 月 11 日（金）～平成 24 年 1 月 20 日（金）

(4) 定員、割当国

受入人数：9 名

割当国：ベナン、エチオピア、ガーナ、ケニア、ザンビア、ジンバブエ（下線は受入国）

(5) 類型

人材育成普及型

(6) 使用言語 英語

2. 案件の背景・目的

アフリカでは乳幼児や妊産婦に対する保健への取組みが遅れており、ミレニアム開発目標（MDGs）の達成が懸念されている。保健医療が最も必要とされている脆弱な女性と子どもにサービスが届かないことが課題となっている。また、栄養改善はすべての MDGs に関連する重要な課題であるが、地域での栄養・保健行政を包括的に計画、実施、評価できる人材は十分育成されていない。人間の安全保障の観点からも、母子に直接裨益するヘルスプロモーション活動を推進し、女性のエンパワメントに貢献する女性指導者への育成が急務となっている。

本案件では、アフリカの女性指導者を対象に、コミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するために必要な様々な知識、技術、能力を習得することを目的とする。

3. 案件目標

対象とするコミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するための適切な活動計画案が作成される。

4. 単元目標

- (1) 食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動の意義を理解し、幅広い視野で健康と栄養の関係について説明できる。
- (2) 日本での健康増進、栄養改善の取り組みを学ぶ。
- (3) コミュニティの生活環境に即した健康増進・栄養改善を目的とした活動計画案を策定するための手法を学ぶ。

5. 研修成果品

- (1) 本邦研修実施前

「初期報告書（Inception Report）」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題や、それに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

- (2) 本邦研修終了時

「最終報告書（案）（Draft Final Report）」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に単元目標（3）にかかる活動計画（案）を作成し、コース終盤に発表する。

- (3) 帰国後の事後活動

「最終報告書（Final Report）」の作成

研修員は帰国後、最終報告書（案）に書かれた行動計画（案）を所属組織に報告、関係者と共有のうえ、最終的な行動計画（案）をまとめ、帰国後3ヶ月以内にJICA帯広に提出する。JICA帯広は同報告書を関係者と共有のうえ、次年度以降に実施される研修に内容をフィードバックし、必要に応じフォローアップを検討する。

6. 研修員参加資格要件

(1) 募集要項記載条件

- ア. 栄養指導、保健指導の政策・立案に従事している中堅職員
- イ. 当該分野で3年以上の経験があること
- ウ. 45歳までの女性

(2) 各案件共通資格要件

- エ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること
- オ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること
- カ. TOEFL IBT 72点（CBT 200点／PBT 533点）以上に相当する英語能力を有すること
- キ. 心身ともに健康なこと
- ク. 軍に属していないこと

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間等）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理
- エ. 募集要項および実施要領等の作成等

(2) HIECC

- ア. 日程表の調整・作成
- イ. 講師、視察先等への連絡・確認
- ウ. テキスト、資料等の手配等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言等

(4) JICE

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、HIECC 等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に、東京国際センター（以下 TIC: Tokyo International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

TIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として 10 時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程

日 程	内 容
11 月 9 日（水）	集合ブリーフィング
11 月 10 日（木）	ジェネラルオリエンテーション 講義「日本の社会と日本人」「日本の経済」等
11 月 25 日（金）	日本語講習（夜間）
11 月 26 日（土）	日本語講習

10. 主な宿泊場所

東京国際センター（TIC）

所在地：〒151-0066 東京都渋谷区西原 2-49-5

Tel (03) 3485-7051 Fax (03) 3485-7904

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 北海道帯広市西 20 条南 6 丁目 1 番地 2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本案件に地域の小中学校の生徒や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上

研修員関連情報

研修員情報(英語力はリスニング／スピーキング／記述読解能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし)

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい事項
1	① Natacha CODJIA ② D-11-06500 ③ 31 ④ 女性 ⑤ ベナン	① 保健省 アトランティック県およびリトラル県保健局 タンボジェヴィ保健所主管 ② 3年5ヶ月 ③ 国立助産師学院(助産師資格・04年卒) ④ BBBB ⑤ (記載なし)	① 助産師として、産前産後の診察、予防接種、地域女性の分娩補助、家族計画、子供の診察、病気や予防接種、栄養に関する意識の向上を担う。 ② ・母乳保育による幼児死亡率の低下 ・地産の食品による5歳未満の幼児の栄養状態の改善	・鉄分の投薬による妊婦の健康状態、および栄養(供給)による子供の健康の改善 ・女性に収入をもたらす活動を増やし、母子が食べるために地元産の食品の活用 ・伝染病対策の無料ワクチン接種、および全ての子供にビタミンAと駆虫剤の供与 ・栄養:ベナン政府は、甲状腺腫対策のためにヨウ素塩製剤の摂取を勧めている。 ・(特に関心があることとして)担当地域では、子供向けの食料欠乏率が高いが、野菜、フルーツ、穀物、鶏の生産は行われている。この状況を踏まえて、幼児および妊産婦の摂食状態の改善を行いたい。
2	① Ejigayehu Tolessa BULTUM ② D-11-06499 ③ 29 ④ 女性 ⑤ エチオピア	① (オロミア州)西ウォールガ地域保健所 疾病予防管理局 HIV/AIDS予防管理 専門官 ② 3年8ヶ月 ③ ジマ大学(看護学専攻・理学士・11年卒) ④ AAAA ⑤ (記載なし)	① 地域保健所でのHIV/AIDSの予防管理に関する専門家 ② 総合的な予防、促進、社会復帰、基礎治療の保健サービスを提供、統制することにより、地域住民の疾病率、死亡率、障害を減少し、健康状態の改善を行う。	・健康で生産的な地域住民の健全性を確保すること ・地域の栄養活動に関する優れた知識とスキルを身に付けること ・特に女性の栄養と保健システムに関心がある。
3	① Joyce Naakai BONDZIE-ASMAH ② D-11-06715 ③ 46 ④ 女性 ⑤ ガーナ	① ガーナ保健サービス 栄養部 主任技官 補 ② 5年9ヶ月 ③ ガーナ大学(食品安全と栄養学専攻・10年卒) ④ AAAA ⑤ (記載なし)	① 1)首都圏の栄養計画および活動の作成と実行 2)栄養プログラムを調整し、食品と栄養に関する全ての問題についての技術的指導およびガイドラインを提供 3)栄養失調問題の管理 ② (ガーナ保健サービス)優良な健康と長寿のための積極的な政策の策定と推進により、ガーナ在住全ての人々の健康状態を改善すること。 (栄養部)栄養失調が原因である予防可能な病気や死亡のない国を作ること。	・女性たちに栄養の必要性に関する研修を、草の根レベルでできるようなより多くの知識とスキルを身につけたい。 ・(特に関心があるのは)地域レベルの女性たちへ、栄養状態および子供たちのことに関しての意思決定に参加できるような地位への向上を促し、意識啓発を行うこと

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい事項
4	① Evelyn TABIL ② D-11-06716 ③ 41 ④ 女性 ⑤ ガーナ	① ガーナ健康サービス アクラ市健康増進部 家族健康部門 健康増進・看護担当官 ② 5年1ヶ月 ③ ガーナ大学(社会行動科学・公衆衛生学修士・11年卒) ④ AAAA ⑤ (なし)	① 1)結核、マラリア、EPI(予防接種拡大普及計画)などのためのコミュニケーション戦略の開発(一部判読不可能箇所あり) 2)地域や地方への視察の際のモニタリングや監督、および技術支援 3)メディア関連およびスタッフのための教育ガイドライン概要の制作補助 4)保健イベントのプログラムの計画とまとめ ② 以下を通じて、国全体の社会経済の発展と健康増進に寄与する。 1)健康と活力の促進 2)全てのガーナ在住の人々のための質の高い健康および栄養業務へのアクセスの確保 3)地域の健康と産業の発展の活性化	・自国の母子健康と栄養状態の改善 ・(特に関心があるのは)健康促進および栄養学、母子健康
5	① Rael Chepchumba-Mutai BIWOTT ② D-11-06498 ③ 37 ④ 女性 ⑤ ケニア	① 公衆衛生省 プライマリ・ヘルス局 監視評価係官 ② 8ヶ月 ③ ナイロビ大学(内科、外科、疫学、衛生統計学、疾病管理専攻・医学修士/公衆衛生学修士・11年卒) ④ AAAA ⑤ (なし)	① ・地域保健戦略およびプライマリーヘルス業務(診療所および保健所)の実効調査 ・地域保健業務およびレベル3 & 4業務提供促進のための年間運用計画作成 ② 全てのケニア国民に対して、公平、迅速、アクセス可能かつ責任のある上質な公衆保健衛生業務の提供のために効果的な指導と参加を行う。	・母子健康の改善のために包括的な健康および栄養促進を計画、実行、評価するための知識とスキルを習得すること ・特に地域のヘルスクエアと栄養士の役割に関心がある。
6	① Juliet Namikoye WALUKANA ② D-11-06712 ③ 32 ④ 女性 ⑤ ケニア	① 公衆衛生省 栄養部 家族保健課 上級栄養担当官 ② 3年6ヶ月 ③ エガートン大学(栄養学/食品学専攻・同理学士・04年卒) ④ AAAA ⑤ (なし)	① 保健業務担当者および地域保健担当者のための乳児・幼児の食事に関する研修および最新情報の提供などを含む、担当地区の栄養活動の監督業務 ② アクセス可能かつ手の届く料金での公衆保健衛生業務の提供のための指導と参加を行う。	・乳幼児および妊婦の栄養問題に関して、他の国からの研修員と経験を共有したい。 ・微量栄養素欠乏の減少のために、自国で適用可能なスキルと知識を習得したい。 ・(特に関心があることとして) 微量栄養素(摂取)を学校のカリキュラムに統合すること。幼児の微量栄養素欠乏を軽減することは時間がかかる。母親たちに産後6ヶ月間は授乳を行わせることにより、乳幼児死亡率が減少するであろう。
7	① Jean KASENGELE ② D-11-07410 ③ 34 ④ 女性 ⑤ ザンビア	① Ndola地区医療事務所 代理上級栄養士 ② 2年3ヶ月 ③ 記載なし ④ AAAB ⑤ なし	① 地区における栄養関連活動を調整・実施また、健康管理施設に対し栄養介入の計画・実施に関わる技術を指導。 ② 保健省の構想によりNdola地区健康管理チーム(NDHMT)は費用効果的で、良質な保健サービスを可能な限り家庭レベルにおいても公平に利用できるよう取り組んでいる。NDHMTには予防・促進並びに治療サービスを提供する19の保健センターがあり、地区におけるそれらセンターを管理している。	地区における栄養活動の計画・実施を推進する栄養士として、地域医療に関係するより多くの知識・技術を習得したい。また、我々の組織における限られた資源の中での費用効果的な栄養介入を確立させたい。

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名	①現職②現職期間 ③最終学歴(専攻) ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい事項
8	① Nampolele Mulenga KASWAYA ② D-11-07411 ③ 44 ④ 女性 ⑤ ザンビア	① 保健省 カブウェ州保健局 主任栄養士代理 ② 10ヶ月 ③ 天然資源開発短期大学(食物栄養学) ④ AAAA ⑤ なし	① 業績評価の実施、技術支援の実施、資金の調達、能力開発、モニタリング評価の実施 ② 可能な限り各家庭に近づいた、彼らが公平に利用できるように費用対効果の高い、良質なヘルス・ケアを提供	1. 地域栄養および栄養士の役割 2. HIV/AIDS患者のための献立作り
9	① Meggie GABIDA ② D-11-06583 ③ 31 ④ 女性 ⑤ ジンバブエ	① 保健・児童福祉省 栄養部 主任栄養士 ② 10ヶ月 ③ ジンバブエ大学(公衆衛生栄養学、栄養教育、食事療法学専攻・栄養学理学士・05年卒) ④ ABAB ⑤ (なし)	① 1) 関係者および協力者とともに栄養関連のプログラムをコーディネートする。 2) 州レベルまでの担当地区の範囲内で、栄養プログラムを立ち上げ、実行、監督、モニタリング、評価をする。 3) 担当地区内および全国における年間および定期的な食糧と生計の安全保障の評価に参加する。 4) 栄養に関する情報を、協力者および関係者と共有する。 5) 適切な介入のための報告書および提案書の作成 6) 健康に関する専門家および地域住民を対象とした、「BFHI(赤ちゃんに優しい病院計画)」、「CMAM(重度栄養失調に対する地域における管理)」、「CIYCF(地域幼児と児童への食糧補給)」、「PMTCT(HIV母子感染の予防)」に関する研修を実行する。 7) 保健機関、寄宿舎学校、刑務所などへの栄養問題に関する技術的支援を行う。 8) 微量栄養素欠乏を監視し、例(VAS*およびIDD**)に対する全国的な(栄養)補給を支援する。 <訳注:*おそらくVAD(ビタミンA欠乏症)、**(ヨウ素欠乏症)> ② ・(保健児童福祉省)プライマリ・ヘルス・ケア手法に沿って、可能な限りの資源を投入し、公平かつ適切、アクセス可能、支払い可能、許容可能な質の保健業務を提供および管理、促進、普及、支援する。	・2015年までに病院の枠を超えた栄養プログラムへと拡大する戦略を構築するための知識とスキルの習得 ・国内の栄養失調による発育不全の割合が33.3%という悲惨な状況を逆転させるだけの能力をつけること ・アフリカの女性指導者たちの健康促進と栄養改善活動において主導的な立場を取れるだけの能力を習得すること ・人類と経済の発展促進のために、女性のエンパワメントと栄養改善を行えるようになること (特に関心があることとして) ・地域の強化と参加型の栄養教育は、保健、教育、経済発展に深く関わる「隠れたMDG(ミレニアム開発目標)」に取り組むための長い道のりとなる。したがって、この分野の専門知識は、自国での栄養プログラムの拡大や、疾病率および死亡率を削減する力となり、人間および経済発展の促進へと繋がるであろう。 ・わが国における多くの問題は、母親たちの「知識・姿勢・信念・実行(KABP)」を改善する栄養教育および健康増進活動によって解決されるであろう。

平成23年度(地域別研修)「アフリカ地域 女性指導者のための健康と栄養改善」コース研修カリキュラム

研修目標:対象とするコミュニティでの食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動を実施するための適切な活動計画案が作成される。

単位：日

科目	講義	演習	視察	討論	担当講師	講義内容
単元目標1:食と栄養を核としたヘルスプロモーション活動の意義を理解し、幅広い視野で健康と栄養の関係について説明できる。						
アフリカにおけるHIV母子感染予防の今日的課題	0.5				ボルドー大学 フランソワ・ダビス教授	アフリカにおけるHIV母子感染予防の現状と課題について最新情報を解説する。
HIV感染者の栄養支援	0.5				静岡英和学院大学短期大学 木下講師	栄養士の立場からHIV陽性者に対する栄養指導の留意点および実践の方法について日本での事例を通じて解説する。実際に用いられている食事、食品などを紹介する予定としている。
ヘルスプロモーション概論	0.5				萩原コースリーダー	個人の健康改善と地域全体の健康改善を考えるには個人のみならず地域社会全体での健康改善のための環境づくりが不可欠である。このような視点からヘルスプロモーションの概念が生まれ、1990年代にはProcede-Proceed Modelなどが紹介され先進国、途上国双方で注目されている。この概念は途上国の地域栄養改善などに特に有効であり、この手法をつかって地域診断と改善のための政策立案が可能である。本講義では各国の事情を踏まえながらヘルスプロモーションの概念と適用について解説するとともにコミュニティにおける「行動変容 (Behavioral Change Communications)」についても触れる。
保健医療協力における栄養対策	0.5				JICA カ丸国際協力専門員	これまでのJICAの栄養分野での協力の事例を紹介し、保健医療協力における栄養対策の在り方について考察する。
JICAの対アフリカ保健医療協力	0.5				JICA人間開発部 林職員	TICADⅣ(第4回アフリカ開発会議)で日本政府が表明した保健医療分野コミットメント(感染症対策、母子保健、保健システム強化)に基づくJICAの協力指針について解説する。
日本の開発、食から健康を考える 生活園芸と食～恵泉女学園の取り組み	1.0	1.0			恵泉女学園大 谷本教授、澤登教授	日本のこれまでの開発を通じて(大学周辺の地域開発の視察も含め)、女性の健康と食事について考える。大学で実習している有機肥料を利用した家庭菜園、ソーラークッカーの紹介、また学生との食育実習を体験する。
女性のリプロダクティブヘルスとエンパワメント	1.0				JOICFP 鈴木事務局長、船橋プログラム・オフィサー	リプロダクティブ・ヘルスについて討論し、諸事例をあげながら効果的な女性のエンパワメントのための方途について学ぶ。またJOICFPが途上国で採用している紙芝居やBCC、マギーエブロン、マグネルキットやCHW(Community Health Worker)が使っている効果的なツールの利用法も紹介する。
女性と子どものHIV/AIDS:母子感染と栄養	0.5				筑波大学 若杉教授	アフリカにおけるエイズの現状や母子感染について理解し、栄養に関連した分野からエイズの予防と対策について学習する。また、現場で患者に関わる女性指導者の役割と重要性について学ぶ。
地域栄養	1.0	1.0			食生態学実践フォーラム 足立理事長	開発途上国における地域栄養の実際と効果的な栄養改善のための方途を食生態学に基づいて解説する。またわが国の栄養改善の経験や問題点についても昼食作りの実習を通じて学ぶ。
日本の栄養政策とその変遷/開発途上国における食事調査	1.0				青森県立保健大学 吉池教授 国立健康・栄養研究所 三好研究員	日本の栄養政策の現状と変遷および、政策策定の基礎となる国民栄養調査について解説する。また後半は開発途上国における栄養調査のうち、主として食事調査の実践と手法について学習する。
コミュニティエンパワメントと参加型栄養教育1、2	2.0				国立保健医療科学院 石川上席主任研究官	開発途上国における地域住民参加型の栄養改善のヘルスプロモーション方法を講義とワークショップで学ぶ。
十勝の農村の食生活改善運動の歴史と流れ	0.5				元生活改善普及員 川原氏	昭和35～45年ころの食生活を取り巻く農家の環境、農家所得、農家住宅、衛生状況、衣生活、農民の健康問題を通じて食生活改善運動の重要性を事例を通じて学ぶ。
学生との交流「アフリカと日本の食文化」について	0.5			0.5	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	調理を通じて研修員の有する知識や食品利用についての知見と日本の学生による食文化の交流を通じて栄養についての理解を深める。
女性、栄養と保健システム	1.0				萩原コースリーダー	アフリカにおける保健システム強化、母子保健・リプロダクティブ・ヘルス・栄養への取り組みについて概観する。その上で同分野の重要性と支援についての国際的動向とJICAの基本的な姿勢・方針を解説する。
ヘルスプロモーションの実践的展開	1.0				増毛町役場福祉厚生課 石坂係長	事例を通じヘルスプロモーション推進のプロセスと促進要因、視点の持ち方などを学ぶ。また帰国後ヘルスプロモーションを推進していくための有効な方途についても触れる。
小計	12.0	2.0	0.0	0.5		
単元目標2:日本での健康増進、栄養改善の取り組みを学ぶ。						
食文化論	0.5				帯広大谷短期大学 池添名誉教授	歴史的パースペクティブにおいて日本の食文化を紹介。明治維新から第二次世界大戦後、現在に至るまでの「米」の果たした役割、米について創意工夫の産物を列挙し米文化の変容・影響を説く。
栄養と代謝	0.5				帯広大谷短期大学 池添名誉教授	微量栄養素欠乏(ヨウ素欠乏症)と代謝について理解する。
帯広市学校給食共同調理場視察			0.5		帯広市学校給食共同調理場	小・中学校における児童生徒の栄養と給食について視察しながら学校保健の有効性を紹介する。
食品加工Ⅰ、Ⅱ	0.5	1.0			帯広大谷短期大学 池添名誉教授	地場産品を使った最新の加工技術と帰国後応用可能な加工技術の習得(大豆以外のトウモロコシなどの加工、マンゴーなどのドライフルーツ加工)
食品の保蔵と加工	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 池添名誉教授	食品の加工理論、加工法と加工技術、及び各種保蔵法 大豆を使った加工品の紹介
公衆栄養学	1.0				帯広大谷短期大学 植田教授	生活習慣病の国際比較/我が国の死亡統計に見る生活習慣病の実態/日本とアメリカの食生活指針/国民栄養調査(BMIを含め)などについて演習を交えながら理解する。
栄養士の役割、栄養指導概論	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 山崎教授	栄養士の役割、栄養指導の成立と変遷、21世紀の健康づくりと栄養指導、日本の食生活の現状と問題点、食事計画、食生活・栄養教育の方法と技術、栄養指導の評価、特定給食施設別栄養指導
自分の身体状況に合った献立の作成及び栄養価計算・評価	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 山崎教授	自己の適正体重・基礎代謝量・必要な栄養量を調べ、食料構成・レシピを作成、栄養計算、評価を行う。
保健所の組織・役割と公衆衛生業務	0.5		0.5		北海道帯広保健所	我が国の保健所の概要、栄養・衛生行政、栄養士業務について 栄養相談、試験検査室の視察。
病院栄養士の業務について/最新医療機器の説明	0.5		0.5		北斗病院 油谷栄養科長	病院の栄養士の役割、栄養療法の実際を院内見学を行いながら学ぶ。我が国の地域医療におけるレファラルシステムを理解する。
生活習慣病の予防	0.5				北斗病院 潮田医師	生活習慣病について医学的見地から学ぶ。
糖尿病に関する演習・実習	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 山崎教授	糖尿病について。糖尿病交換表の使い方解説等。糖尿病のモデル食展示。糖尿病食の試作。
栄養素欠乏症及び改善料理試作	0.5	0.5			帯広大谷短期大学 山崎教授	ビタミン欠乏症・ヨード欠乏症・鉄欠乏症について。ビタミンA、亜鉛、鉄、カルシウムを多く摂取可能な料理の作成。ヨードが摂取できる料理の試作。研修員の国にもある材料を使い、栄養改善のための献立作成・調理・説明・評価・討論を行う。
食品の衛生・安全管理	1.0				帯広大谷短期大学 山崎教授	衛生・安全管理の意義、食中毒・感染症について、ネズミ及び昆虫などの対策、事故防止、衛生管理体制、事故発生時の対応、衛生教育、安全管理
健康帯広21の取り組み	3.0	2.5		0.5	帯広市保健福祉センター	我が国の21世紀の保健政策の中心となる健康日本21の政策と現場での取り組みを紹介する。・帯広市の保健事業・母子保健事業・成人保健事業および各事業のモニタリングと評価
病院での産婦人科と栄養科の役割			0.5			病院で産婦人科及び栄養科を視察することにより、院内における母子への取り組みを理解する。
小計	10.5	6.0	2.0	0.5		
単元目標3:コミュニティの生活環境に即した健康増進・栄養改善を目的とした活動計画案を策定するための手法を学ぶ。						
課題分析・目的分析・関係者分析	1.0	1.0			北海道医療大学 半田教授 萩原コースリーダー	アクションプランの策定手法として、問題分析、関係者分析の演習を行い、問題系図から目的系図の作成を目指す。アフリカ、アジアでの事例をもとにどのようなアプローチが可能か模索する。
PCM手法、PPMモデルを活用したプロジェクト形成、運営管理	0.5				萩原コースリーダー	PCM手法、PPMモデルについて学び、効果的なプロジェクト形成、運営管理の手法を習得する。
アクションプラン事例報告	0.5				JICA帰国研修員 シャンビ氏	2005年度ケニアから参加した研修員による、帰国後の行動計画実施例を紹介し、実施にいたるまでと実施後の課題を紹介する。
ドラフトファイナルレポート検討会Ⅰ、Ⅱ				3.0	萩原コースリーダー	ヘルスプロモーションの理論などに依拠しながら各研修員が本研修を通じて得た知見をもとに帰国後の行動計画を具体的に作成してもらう。
小計	2.0	1.0	0.0	3.0		
合計	24.5	9.0	2.0	4.0		

研修日程表

付表-3

	曜日	時間	区分	科目	担当	研修場所	宿泊地
11月8日	火			来日			東京
11月9日	水			集合ブリーフィング		東京国際センター	
11月10日	木			ジェネラルオリエンテーション		東京国際センター	
11月11日	金	9:30-12:00		JICAブリーフィング コースオリエンテーション	JICA帯広 伊藤 萩原コースリーダー	JICA本部 113会議室	
		13:30-15:30	講義	アフリカにおけるHIV母子感染予防の今日的課題			
11月12日	土	10:00-12:30	講義	HIV感染者の栄養支援	静岡英和学院大学短期大学 木下講師	東京国際センター SR16	
		13:30-15:30	講義	ヘルスプロモーション概論	萩原コースリーダー		
11月13日	日			休日			
11月14日	月			休日(振替)			
11月15日	火	10:00-12:00	講義	保健医療協力における栄養対策	JICA人間開発部 カル国際協力専門員	JICA本部 111会議室	
		13:30-15:00	講義	JICAの対アフリカ保健医療協力	JICA人間開発部 林職員		
11月16日	水	10:00-17:00	講義 実習	日本の開発、食から健康を考える	恵泉女学園大学 谷本教授、澤登教授	恵泉女学園大学	
11月17日	木	10:00-17:00	講義 実習	生活園芸と食～恵泉女学園の取組み	恵泉女学園大学 谷本教授、澤登教授	恵泉女学園大学(教育農場)	
11月18日	金	9:30-16:00	講義	女性のリプロダクティブヘルスとエンパワメント	公益財団法人 ジョイセフ 鈴木事務局長／船橋プログラム・オフィサー	公益財団法人 ジョイセフ	
11月19日	土	10:00-13:00	講義	女性と子どものHIV/AIDS: 母子感染と栄養	筑波大学 若杉教授	広尾センター 402	
11月20日	日			休日			
11月21日	月	10:00-16:00	講義 実習	地域栄養	NPO法人 食生態学実践フォーラム 足立理事長	みなみかぜ	
11月22日	火	10:00-16:00	講義 実習	地域栄養	NPO法人 食生態学実践フォーラム 足立理事長	みなみかぜ	
11月23日	水			祝日(勤労感謝の日)			
11月24日	木	9:30-16:00	講義	日本の栄養政策とその変遷/開発途上国における食事調査	青森県立保健大学 吉池教授 国立健康・栄養研究所 三好研究員	東京国際センター SR10	
11月25日	金	AM		移動(東京→帯広)			帯広
		PM		帯広ブリーフィング	HIECC	帯広国際センター	
		18:00-21:00		日本語講習		帯広国際センター	
11月26日	土	9:00-12:00 13:00-17:00		日本語講習		帯広国際センター	
11月27日	日			休日			
11月28日	月	9:15- 9:45		市長表敬		帯広市役所	
		10:30-17:00	講義 演習	課題分析・目的分析・関係者分析	北海道医療大学 半田教授 萩原コースリーダー	帯広国際センター	
11月29日	火	9:30-16:00	講義 演習	課題分析・目的分析・関係者分析	北海道医療大学 半田教授 萩原コースリーダー	帯広国際センター	
11月30日	水	10:00-11:30	討論	東京プログラム振り返り	萩原コースリーダー JICA帯広 伊藤	帯広国際センター	
		13:30-16:00		インセプションレポート発表会	萩原コースリーダー JICA帯広 伊藤		
		16:00-17:00		懇親会			
12月1日	木	9:30-12:00	講義	食文化論	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	帯広大谷短期大学	
		13:00-16:30	講義	栄養と代謝	帯広大谷短期大学 池添名誉教授		
12月2日	金	9:30-12:30	講義 視察	帯広市学校給食共同調理場視察	帯広市学校給食共同調理場	帯広市学校給食共同調理場	
		13:30-16:00	実習	食品加工Ⅰ	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	帯広大谷短期大学	
12月3日	土			ホームビジット			
12月4日	日			休日			
12月5日	月	9:00-16:30	講義 実習	食品の保蔵と加工	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	帯広大谷短期大学	
12月6日	火			休日(振替)			
12月7日	水	9:30-15:30	講義	公衆栄養学	帯広大谷短期大学 植田教授	帯広大谷短期大学	
12月8日	木	9:30-15:30	講義 演習	栄養士の役割、栄養指導概論	帯広大谷短期大学 山崎教授	帯広大谷短期大学	
12月9日	金			学校訪問			
12月10日	土	9:30-15:30	講義 演習	自分の身体状況に合った献立の作成及び栄養価計算・評価	帯広大谷短期大学 山崎教授	帯広大谷短期大学	
12月11日	日			休日			
12月12日	月	9:30-16:00	講義	community empowermentと参加型栄養教育1	国立保健医療科学院 石川上席主任研究官	帯広国際センター	
12月13日	火	9:30-16:00	講義	community empowermentと参加型栄養教育2	国立保健医療科学院 石川上席主任研究官	帯広国際センター	
12月14日	水	10:00-16:00	講義 視察	保健所の組織・役割と公衆衛生業務	北海道帯広保健所	帯広保健所	
12月15日	木	9:30-16:30	講義 実習	食品加工Ⅱ 保蔵と貯蔵	帯広大谷短期大学 池添名誉教授	帯広大谷短期大学	
12月16日	金	9:30-16:30	講義 視察	病院栄養士の業務について/最新医療機器の説明	北斗病院 油谷栄養科長	北斗病院	

年 度 別 受 入 実 績 表

１．応募／選考（受入）人数

	平成23年度	累計
応募数	13名	13名
受入数	9名	9名

２．研修員出身国

国名	平成23年度	累計
ベナン	○	1名
ガーナ	○○	2名
ザンビア	○○	2名
ジンバブエ	○	1名
ケニア	○○	2名
エチオピア	○	1名
合計	6カ国 9名	6カ国 9名



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
電子メール : jicaobic@jica.go.jp